

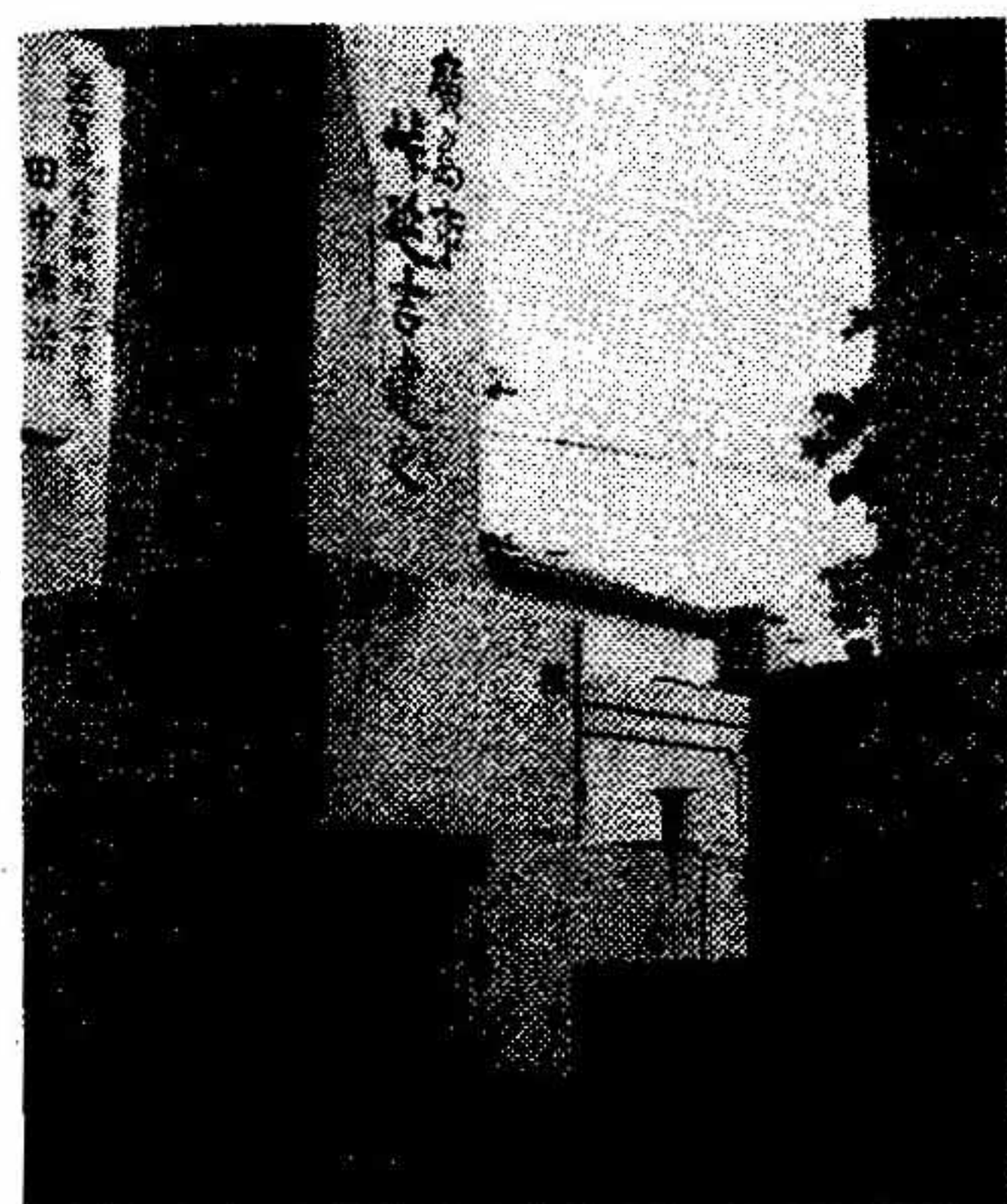
09022013 秋 (2)

## 8章 京都府の空襲

「超空の要塞」と呼ばれたB29  
爆撃機



馬町空襲の傷痕の残る墓石群  
(鳥辺野墓地)



京都府では、市街地に対する大規模な空襲はありませんでしたが、小規模な空襲はかなりあり、京都市、舞鶴湾周辺、宇治市、宮津市などで、軍人を含め三〇〇人以上の死者を出しています。

このような空襲の実態は一九七〇年代に「京都空襲を記録する会」によって明らかにされ、「京都には空襲はなかった」という誤った認識は覆されることになりました。現在、判明している空襲の様子は以下のようなものですが、まだ、今後調査を要する点が多くあります。

### 一九四五年一月一六日 京都市東山区馬町

午後一一時二〇分頃、一機のB29が京都市上空に侵入し、何回か旋回した後、突然、東山区馬町付近に爆弾を投下しました。

寒い冬の夜で、多くの人は眠りについていたうえ、それまで京都市には空襲がなかったので、人々は轟音に驚き跳び起きたものの、とっさには何が起こったかわからず、戸外に出て破壊された家屋と火の手を見て、初めて事の重大さに気がついたと言います。

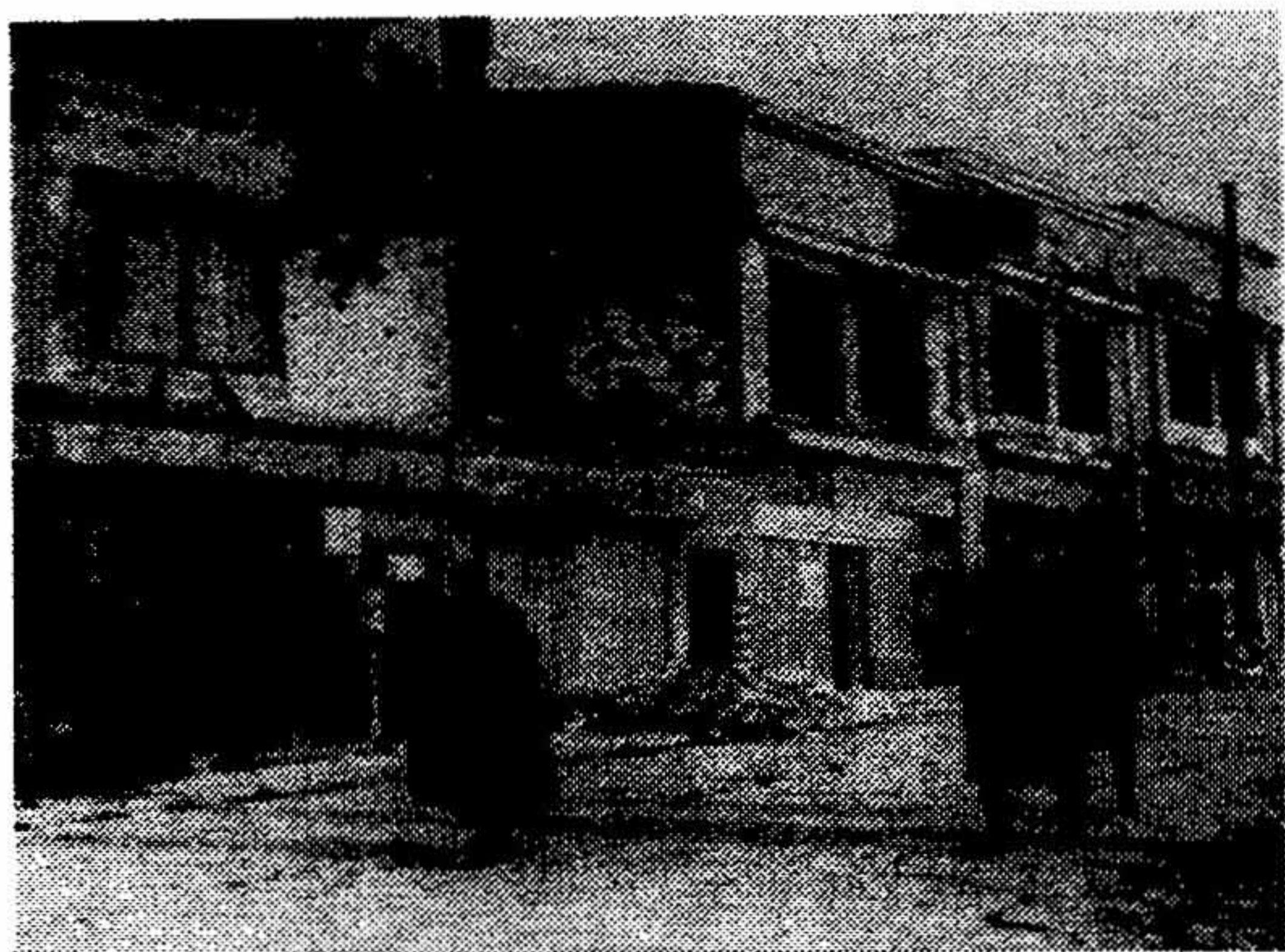
この京都府初の空襲について、一月一八日付の「京都新聞」は、「マリアナ基地よりB

29一機が十六日午後十一時半頃京都に侵入、京都市内の一部に爆弾を投下、家屋等の倒壊をみたが、被害は軽微にして、市民の士気は極めて旺盛、些かの動揺もなく職場に挺身している」と、平静を装った報道をしていますが、実際には大きな被害がありました。その状況は、「昭和二十年六月 京都府知事事務引継演説書」（以下、「知事事務引継書」と略記）の「空襲被害一覧表」によると、死者三四人、負傷者五六人、全焼・全壊二二戸、半壊一一二戸となっており、京都空襲を記録する会編『かくされていた空襲』では、死者四一人（即死三二人、後日死亡九人）、負傷者四八人、被害家屋三二六戸としています。死者の中には修道国民学校（現・東山小学校）の生徒九人が含まれていました。

爆弾は、大部分は渋谷通（馬町通）沿いの修道国民学校から京都女子専門学校（現・京都女子大）付近の間に落ちましたが、一部は、五条坂北側の鳥辺野墓地や、東大路の西側の妙法院前側町にも落ちました。

空襲直後、ただちに救援隊が組織され、全壊した京都女子専門学校第三小松寮では、生き埋めとなった寮生五人が無事助け出されるといふ不幸中の幸いもありましたが、死者の遺体は、手足がちぎれたもの、全身血だるまで性別すら分からないもの、はらわたが飛び出したものなど、目をおおうばかりだったと言います。

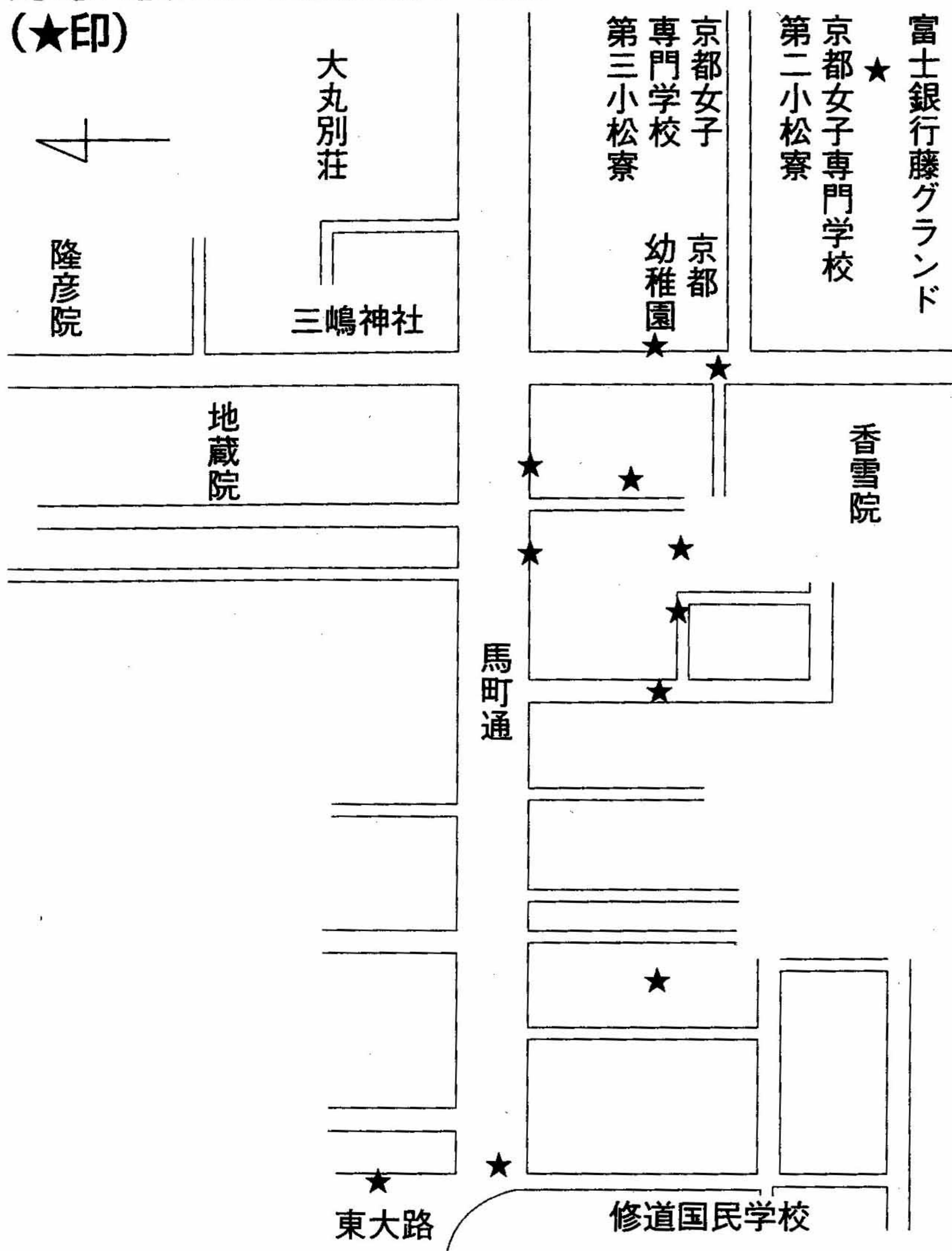
今では当時の傷痕はほとんど見られませんが、鳥辺野墓地の「肉弾三勇士」の墓の周囲の墓石には、爆弾で破壊され修復された生々しい跡が残っています。墓の上手の日蓮宗通妙寺も被弾して、壁に修理の跡が見られますが、当時、先代住職の石本さん夫妻と息子さん



東山区馬町空襲の惨状  
（京都新聞社提供）

# 馬町空襲による爆弾投下地点

(★印)



死傷者は修道国民学校応急救護所に運ばれ、このうち生存者は日赤、八坂、府立病院などへ転送されて手当を受け、死者の遺体は智積院に移されて一八日に慰霊式が行われ、火葬されました。

ところで、この時投下された爆弾について、「知事事務引継書」では、二五〇ポンド焼夷弾一発、一〇〇ポンド爆弾一五発、二〇ポンド爆弾五〇発としています。また、当時、「モロトフのパン籠と言われる親子爆弾（焼夷弾）が投下された」といった言説が流布し、『か

くされていた空襲』『かくされた空襲と原爆』『日本の空襲第六巻 近畿編』なども、それをそのまま記述しています。

しかし、米軍第二一爆撃機軍団作成の「作戦概要」一二号によると、名古屋の熱田造兵廠を第一目標としてサイパン島を発進した気象観測兼爆撃任務（WSM）一一六号のB29が、曇天による視界不良のため、一六日午後一時一九分に京都に爆弾を投下したもので、「高度約二万九〇〇〇フィート（九〇〇〇メートル）から二五〇ポンド（一一三キロ）爆弾二〇発を投下し、京都市の中心部に二〇の爆発が起こるのが視認された」と報告しています。

この爆撃時刻は日本側の記録とほぼ一致し、また、「二五〇ポンド爆弾二〇発投下」との記述は、「京都空襲を記録する会」の調査によって判明した十数カ所の投弾地点ともよく符号します。したがって、今までの通説は訂正する必要があります。

## 証言

血まみれのお母さんの死体に抱かれていて助かった赤ちゃん

清水喜美子さん

(京都市東山区在住・一九二〇年生まれ)

私は当時、妙法院前側町に住んでいました。その日は地震の後、空襲があり、現在のホテル東山閣の北側にあった壬生さんという爵位のある西本願寺関係の人の広い邸宅の庭先の防空壕に爆弾が落ちました。警報は出ていなかったのですが、防空壕には誰も入っておらず、家屋の倒壊などありませんでしたが、北隣の民家の二階で女の赤ちゃんと寝ていたお母さんは、爆弾の破片を受けて頭が半分吹き飛んで即死だったそうです。しかし、赤ちゃんは無事でした(同じく妙法院前側町に住んでおられた真溪志津子さんの回想記では、部屋の中は血の海で、お母さんの死体に一晚中抱かれていた赤ちゃんも血まみれだったそうですが、幸い、ケガはなく、明け方に無事救出されたとのこと)。また、壬生さんの家の南向かいの亀村さんがケガをされたので、私が付き添って救護所になっていた修道国民学校へ連れて行きました。東大路以西での被害はこれだけだったと思います。

一九四五年一月二三日 宇治市、久御山町御牧、南丹市園部町榎

「知事事務引継書」によると、午後二時四〇分、宇治郡宇治町(現・宇治市)と久世郡御牧村(現・久御山町)で、機関砲弾により四人が重軽傷を負ったとあります。

また、午後三時三五分、数機のB29が船井郡西本梅村(現・南丹市園部町)上空を北

へ飛行後、引き返して来て、そのうちの一機が、大字大河内小字榎の通天湖に面した山の斜面に爆弾を投下し、山林に火災が生じました。現場には一一個の大穴があき、六〇キロもある破片が残されており、ショックを受けた近くの民家の堀江さんという老婦人がその夜に亡くなったそうです。

この日は、三菱重工業名古屋発動機製作所が約七〇機のB29の昼間攻撃を受けており、京都飛行場や園部町の爆撃との関連も考えられます。

### 一九四五年一月二十九日 木津川市山城町上狛

午後八時一五分頃、一機のB29が相楽郡上狛村（現・木津川市山城町）の上空を通過した際、国鉄（現・JR）奈良線上狛駅の東の水田、西のぶどう畑、木津川原などに五発の爆弾（「知事事務引継書」によると二五〇キロ爆弾）を投下し、大穴があき、死傷者はなかったものの、駅舎や多数の民家のガラスが割れるなどの被害が出ました。

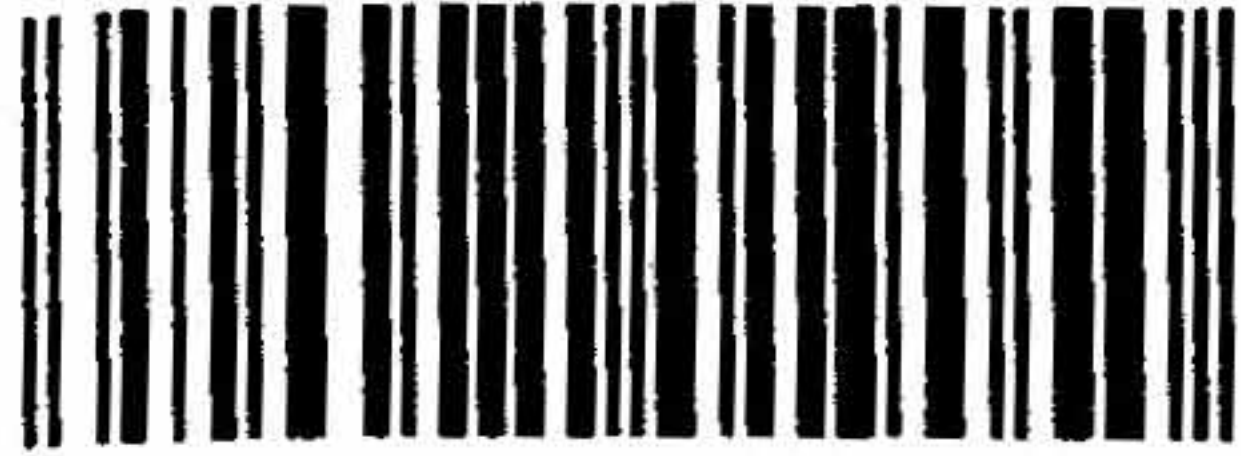
米軍の「作戦概要」二五号によると、大阪を目標としてサイパン島を発進した気象観測兼爆撃任務（WSM）一五一号のB29が、午後八時一五分に、レーダーを使って五〇〇ポンド（二二七キロ）爆弾を投下したとの記録があります。しかし、大阪府内では、これに該当する日本側の記録はなく、時間的に見て上狛の爆撃がこれに該当するものと思われるます。



9784876681716

ISBN978-4-87668-171-6

C0021 ¥1905E



1920021019050

定価 2000 円

(定価 1905 円 + 税)

つむぎ出版



255909276

16方